



国際医療NGO「AMD A(アムダ)」本部・岡山市は、紛争や内戦が続くアフリカやアジアの国々で人命救助活動を行っている。救えるはずの命が戦禍によって失われていく現実には、派遣された医師や看護師は無力感にさいなまれる時もあるが、AMD Aの活動は、平和の実現にも大きな役割を担えるという。

難民キャンプで出産

△アフリカのルワンダでは部族間の対立で約80万人が虐殺され、約200万人が西の隣国ザイール(現コンゴ民主共和国)に逃れた。1994年8月、その難民キャンプで、AMD Aから派遣された岡山市の看護師「柵屋緑さん(47)」が立ち会う中、ルワンダ人の女性が出産した。女性

助けることが平和貢献

AMD A(アムダ) 田



▲ザイールの難民キャンプで診察にあたった瀧崎さん(1994年)＝AMD A提供



柵屋緑さん



瀧崎祐一さん

は子供を「アムダ」と名付けた。柵屋さんが当時は振り返る▽

木の柱にブルーシートの屋根を張っただけの診療所に、産気づいた彼女はたった一人で駆け込んできました。遠い隣国まで見守られ、無事に出産できた安

歩いて避難した後で、やせ細っていました。

毎日数百人をケアし、詳しい事情を聞く時間はありませんでしたが、AMD Aのスタッフに

培感や感謝の気持ち、アムダという名前を表れたのでしょ

実には打ちひしがれた▽

赤痢やマラリアなどが頻発して衛生状態も悪く、子供の患者が目立ちました。

衰弱しても、使える薬が限られ、診療は思うようにいきません。有効な治療ができずに、目の前で何人もの子どもが亡くなっていきま

やってきました。日本とは違い、あまりにあっけなく命が消えていくことに、やりきれなさを感

胸にしこりがあり、乳がんの疑いがあることを本人に告げ、キャンプ外の病院に行くよう勧めました。しかし彼女は「子どもを置いて、自分だけ病院へは行けない。治療はあきらめず」と

親心の尊さを感じました。

戦争や紛争地域で、私たちの活動は、ザルで水をすくうようなものかもしれない。しかし何もしなければ、確実に失われる命がある。1人でも多く助けたいのです。

紛争当事者から信頼

AMD Aは「市民参加型人道支援外交」を提唱している。米同時テロが起きる前の1999年、内戦が続いていたアフガニスタン2大勢力の各代表が岡山市を訪れた。訪問を受けたのは菅波茂代表(65)だった▽

イスラム原理主義勢力のタリバンと、対立する北部同盟のそれぞれと、私たちは予防接種や医療関係者の研修など5項目の合意書を交わし、子供たちにワクチン接種を終えるまで停戦する「医療和平」も呼びかけました。

両者とも前向きでしたが、米同時テロと、それに続く戦争で、和平は幻となりました。しかし民間団体のAMD Aにこうしたことができたのは、パキスタンに逃れたアフガン難民の帰還や医療支援、地震の救援などに取り組んできたからです。

紛争の当事者は、疑心暗鬼になりがちですが、医療関係者は、対立する双方と信頼関係を築くことができます。日本は医療活動を通じて国際社会に貢献し、大きな役割を果たせると思っています。

(聞き手 阿部健)

細動になると死亡率が2倍、脳梗塞の発症率が5倍に増える。予防法について解説する。講演に先立ち、映画「早期発見で緑内障から目を守る会」も上映する。同クラブ非会員は500円で、会員は年6回で1000円。事前申し込みは不要。問い合わせは同クラブ(072・240・3322)へ。

◆市民健康講座「心房細動って怖い！一脳卒中にならないために」 大阪ハートクラブ主催。21日午後2時、大阪市北区芝田町の阪急ターミナルビル17階ふじの間(阪急梅田駅近く)。大阪府立急性期・総合医療センターの福並正剛・副院長が講演。高齢化で増加の一途をたどる不整脈の一種、心房